

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 2 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	瀧 雄渡

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

日本、京都

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

ヤクシマザルのミトコンドリア DNA での実験(ゲノム実習)

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 30 年 5 月 28 日 ~ 平成 30 年 6 月 1 日 ( 5 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

京都大学野生動物研究センター、岸田先生

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。  
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

今回の実習では、ヤクシマザルのミトコンドリア DNA ハプロタイプに関する研究を行った。本研究の目的は、ヤクシマザルの分布と移動について調べることであった。

初めに、屋久島実習で採集したヤクシマザルの糞サンプルから DNA を抽出した。次に、ミトコンドリア DNA のコントロール領域について PCR 増幅を行った。最後に、シーケンシングを行ってハプロタイプを調べ、屋久島のマップ上にプロットした。ハプロタイプの地理的分布を調べ、2006 年の先行研究と結果を比較した。結果としては、1 つのハプロタイプは島内に広く分布していた。他のハプロタイプは限られた範囲でのみ発見されており、先行研究の結果と比較すると、一部のハプロタイプはわずかに移動していた。ヤクシマザルの移動は、島内の高度域と植生のわずかな変化によって起こったのではないかと考えられる。

この機会を得て、DNA に関する基礎的な実験技術を学ぶことができた。

また、この経験は、修士課程で行うクビワオオコウモリの遺伝的多様性解析における糞サンプルを用いた遺伝解析に大いに役立つだろう。

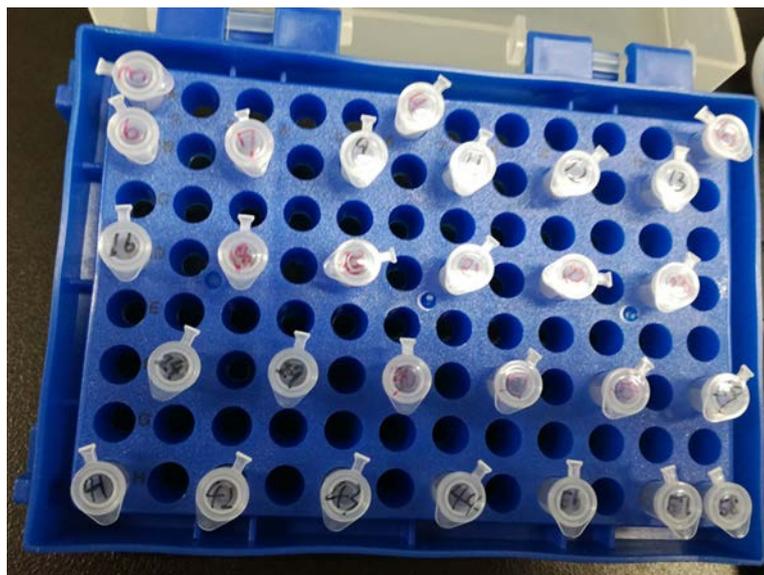


図 1. マイクロチューブに入った DNA サンプル

6. その他 (特記事項など)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

--